

「外国語学習のめやす」 マスター研修 2015_実践課題
 作成者：曲明/室蘭工業大学（中国語）

テーマ
中国人のインターンの学生に自分のこと、学校生活、及び住んでいる町を PPT ファイルで紹介しよう
プロジェクト全体目標
学習レベル 1～2 日本に短期で来ている中国人のインターンの学生に自分たちの生活、①自己紹介、②大学での学校生活の紹介、③自分が住んでいる町の紹介と3つのことについて、ペアで話し合っ、中国語で PPT ファイルを使って紹介する。
コミュニケーション能力指標
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前、年齢、職業、国籍を言うことができる。 ・家族の紹介ができる。 ・自分の専攻、参加している授業の名前を言うことができる。 ・「何曜日（何時）に何をやる」という時間、曜日を使った表現を言うことができる。 ・大学での生活を言うことができる。 ・自分の住んでいる町にある有名な食べ物、有名な施設を言うことができる。
学習シナリオ
<ol style="list-style-type: none"> 1. 今回の活動の計画を皆に知らせる。 2. ペアを組む。 3. 皆で評価尺度を作る。 4. 発表内容を文章にして、メールで教員に送り、教員がそれを添削する。 5. PPT ファイルを作る。 6. 本番前にリハーサルをして、皆で互いのパフォーマンスを評価し合う。 7. 留学生の前で実際発表してみる。 8. 留学生を初め、各自 EXCEL ファイルを用い、他人のパフォーマンスを採点及びフィードバックの文章を書く。 9. フィードバックを学生に返す。
総括的評価
内容、コミュニケーションスキル、PPT の効果

<ワークシート3*3+3分析>

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活や一週間の生活行動にかかわる語彙と表現 ・自己紹介に使う語彙と表現 ・住んでいる町を紹介するための語彙と表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の学生生活と中国人の学生生活の違いに気付く。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中両国の文化の違いや共通性、固有性に気づき、その裏にある歴史・社会背景について理解する上で、「共存」、「協力」を目指し、異文化コミュニケーションの重要性を認識する。
できる	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ができる。 ・日常生活の様子を説明することが出来る。 ・日常の生活行動及びその頻度、時間の長さについて話すことが出来る。 ・自分が住んでいる町を紹介することができる。 ・中国語で言われた日常生活の様子を説明を聞いてわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本、中国大学生の生活の相違点について、社会的な背景を分析し、まとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が知りたい情報をインターネットで検索することが出来る。 ・PPT ファイル、word、Excel、映像情報などを用いることによって、自分の発信能力を鍛える
つながる	<ul style="list-style-type: none"> ・交流校の学生との交流。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの文化を積極的に紹介し、日本の文化を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方法を用いて、自国の文化を紹介し、日本人としてのアイデンティティを再確認する。
三連携	関心・意欲・態度/学習スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で調べる、まとめる。学習者中心的な学習スタイル 	
	既習内容・経験/他教科の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会 	
	教室の外の人・モノ・情報	<ul style="list-style-type: none"> ・中国人インターンの学生との交流 	

＜指示文＞

本年度の11月には、本学の姉妹校である中国のH大学の学生達が、1ヶ月の日本語研修のために本学を訪れます。中国人のインターンの留学生と本学の中国語学習者との交流会を開く予定です。みなさんには自分のこと、自分の大学生活、及び住んでいる町の紹介を中国語でインターンの学生の前でプレゼンテーションをしてもらいます。

○活動の手順

1) ペアを組む

今回は座席准で組んでもらう。普段もペア活動を行っているので、その方が活動をやりやすい。

2) 発表内容を準備する

特に自分が住んでいる町の紹介について、図書館やインターネットなどを活用し、何を紹介するかを決めよう。

3) 発表文を中国語で作る

発表の台本を中国語で文章を作成してください。ワードでそれを作成し、教員に送ってください。作文の添削を行う。その際、文章を作る際に用いた学んだことがない単語を表にして載せてください。

4) プレゼンテーション用の資料をパワーポイントで作成してください。相手に深い印象を与えるように写真や動画などを是非活用してほしい。

5) リハーサル

本番の一週間前に発表のリハーサルを行う。時間の関係で、1ペア1分ほど発表してください。それに対して、クラス全員がExcel表を用いて、採点を行い、感想も書いてください。

6) 本番

中国人のインターンの学生の前で、中国語でプレゼンテーションを行う。リハーサルの時と同様、クラス全員がExcel表を用いて、他の人のパフォーマンスについて、採点を行い、感想も書いてください。

○ 提出物

- ・発表原稿及び単語リスト（ワードのファイル）
- ・発表用の資料（パワーポイント、もしくは動画のファイル）
- ・採点およびコメント表（エクセルのファイル）

＜総括的評価のためのポイント＞

・発表内容

相手のことを考えて、中国人のインターンの学生たちの興味を引くような内容が盛り込まれているか。相手に印象深く残せるような内容であるか。

・発表資料の構成

写真、動画などを活用し、分かりやすく作られているか。
 発表の構成に工夫が見られるか。

・コミュニケーションスキル

声の大きさやスピードは適切かどうか、発音はクリアで、わかりやすいかどうか
 聴衆とアイコンタクトを行っているか、表情は自然かどうか。

＜学習者の個人的特性への対応＞

・PPTファイルの作成を初め、パソコンの技術に関して質問がある人は、いつでも質問できるように技術担当のグループ（3人）を作った。

＜ルブリック＞

	(4点)	(3点)	(2点)	(1点)
内容	中国人のインターンの学生たちの興味を引くような内容が十分に盛り込まれていて、その内容が相手に深い印象を与える。	中国人のインターンの学生たちの興味を引くような内容が盛り込まれていて、まとまりのある内容が印象的である。	当たり前（基本的な情報）の情報が多いが、印象に残るものも少しある。	当たり前（基本的な情報）の情報以外、印象に残るようなものが少ない。
構成	内容の理解を助ける適切な視覚資料を豊富に活用し、非常に分かりやすく作られていて、構成やデザインに工夫が見られる。	内容の理解を助ける適切な視覚資料を活用し、分かりやすく作られていて、構成やデザインに工夫が見られる。	内容の理解を助ける適切な視覚資料を使っているが、構成やデザインに工夫が足りない。	視覚資料の活用が不十分で、構成やデザインに工夫が足りない。
発音と声	声が大きく、発音は明瞭で、発表内容が十分に伝わる。	声が大きく、ほとんどの発音は明瞭で、発表内容がうまく伝わる。	時々不明瞭な発音があるが、声が大きく、発表内容は問題なく伝わる。	不明瞭な発音が多く、声も小さいため、発表内容の理解の妨げになるものが多い。
流暢さ	話のスピードは安定していて、発表はナチュラルでよく聞き取れる。	スピードが適切で、ポーズがあるが、発表の理解には問題がない。	不自然なポーズがあり、聞き取りにくいところがある。	不自然のポーズが多く、時々発表の理解の妨げになる。

ボディーランゲージ	聴衆を意識して、聴衆の興味を引くような表情、アイコンタクトを取る。	適切にアイコンタクトを取り、聴衆を意識するが、時々表情が不自然であり。	時折アイコンタクトを取ろうとするが、すぐにまた原稿に戻ってしまう。	ほとんどアイコンタクトを取らず、原稿を読んでいるだけ。
-----------	-----------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------

<目標分解表>

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
発表内容の文章を作成する	正確な文章を作る	発表原稿を作る	自分のこと、学校生活、及び住んでいる町を紹介する
教員に提出して、添削してもらう (形成的評価)			
ペアで相談して、発表内容を決める	聞く相手の興味を引き出すような内容にする	PPT ファイルを作る	
リハーサルの際、他人のパフォーマンスを評価することにより、得られた気づき及びクラスメートから得られたコメントに基づき、自分たちの評価内容を再考する。			
発表に関係する動画、写真を集め、アップの仕方を覚える。	動画、写真などの視学資料を活用する	発表を行う	
動画、写真などの視覚資料を選別する。			
どのように発表を構成していくかについて、オペアで相談する。	構成やデザインに工夫する	発表を行う	
リハーサルの際、他人のパフォーマンスを評価することにより、得られた気づき及びクラスメートから得られたコメントに基づき、自分たちの発表構成、デザインを再考する。			
1人で発音、声を何度練習する。	発表が伝わるように発音、声、流暢さに注意する	発表を行う	
ペアで互いにフィードバックを与え合う。			
リハーサルの際、他人のパフォーマンスを評価することにより、得られた気づき及びクラスメートから得られたコメントに基づき、声、流暢さなどを再調整する。			
1人で何度練習する。	表情とアイコンタクトなどのボディーランゲージに注意する	発表を行う	
ペアで互いにフィードバックを与え合う。			
リハーサルの際、他人のパフォーマンスを評価することにより、得られた気づき及びクラスメートから得られたコメントに基づき、自分の表情とアイコンタクトなどのボディーランゲージを再調整する。			